

SI 1015

IR 赤外線オーディオ伝送テクノロジー

モジュレーター

Cat. No. 004252

概要

SI 1015ワイドバンドモジュレーターは、信頼できるキャリア周波数2.3と2.8MHzを使い、シングルチャンネル、2-チャンネルそしてステレオ・モードで動作することができます。モジュレーターは、2つのバランス型XLR-3オーディオ入力とIRモニタリングダイオードを備えています。それはSZI 1015やSZI 1029ラジエーターと使うことができ、ラジエーターへのシグナルは、2つのRFソケットまたは、代わりに、バリアストリップを利用します。(N.B.: 接続したラジエーターに電源を供給するバリアストリップは、SZI 1015とSZI 1029-24ラジエーターでのみ使用できます)

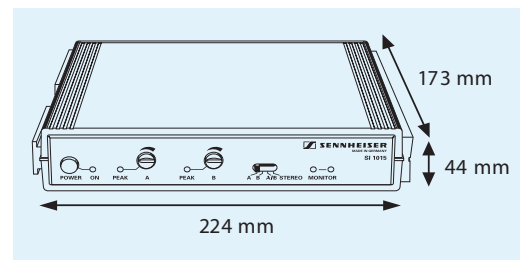


テクニカル データ

モジュレーション	ワイドバンド FM
ノミナル/ピーク デビエーション	±40 kHz/±56 kHz
搬送周波数	2.3 and 2.8 MHz
AF周波数特性	50 ... 15,000 Hz
オーディオ入力	2 x XLR-3, バランス型
入力インピーダンス	600 Ω
入力感度	50 mV... 5 V (ライン),
	オプション: 1 mV... 100 mV (コンデンサー
	マイクروفオン、12V ファンタム パワーリング)
	0.4 mV... 40 mV (ダイナミックマイクروفオン)
RF 出力	2 x BNC socket, バリヤーストリップと
	パラレル、終端インピーダンス 50Ω
動作電圧	24 ... 30 V DC
消費電流	< 140 mA
寸法	19インチハーフサイズ、1 U (224 x 44 x 173 mm,
	ラックマウント イヤーなしで)
重量	approx. 800 g

特徴

- キャリヤー周波数2.3と2.8MHzのモジュレーター
- シングルチャンネル、2-チャンネルまたはステレオ動作ができ、モニタリングダイオードと接続するラジエーター用にRFとDC出力をもつ別々のバリアストリップを備えています。
- 付属品: SI 1015モジュレーター、2つのラックマウントイヤー



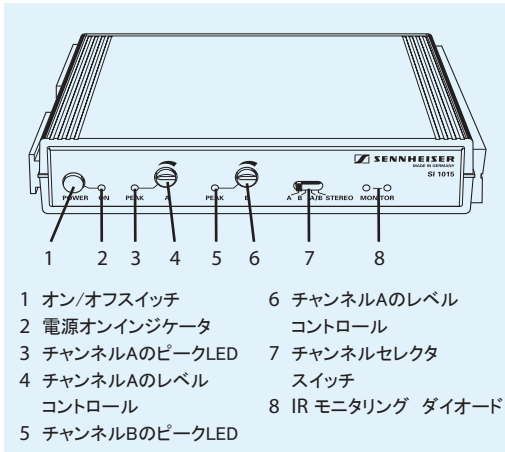
SI 1015の概観寸法

推奨するアクセサリ

- AC電源部
 - NT 1015-EU ヨーロッパバージョン Cat. No. 004560
 - NT 1015-120 USAバージョン Cat. No. 004561
- BNC-BNC 同軸ケーブル
 - GZA 1019 A 1 (1 m) Cat. No. 002324
 - GZA 1019 A 5 (5 m) Cat. No. 002325
 - GZA 1019 A 10 (10 m) Cat. No. 002326
- GZV 1019 A BNC カップラー Cat. No. 002368
- GA 1031 CC ブランクモジュール Cat. No. 004253

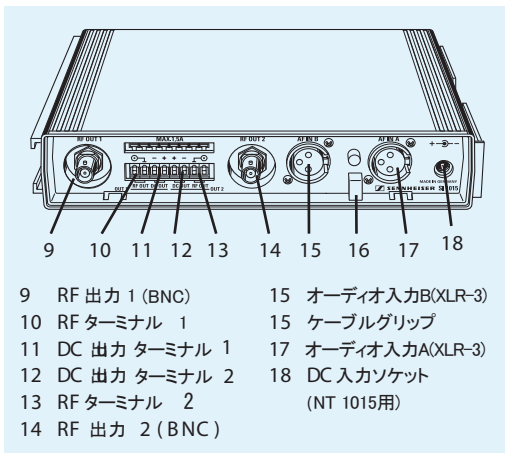
SI 1015

IR 赤外線オーディオ伝送テクノロジー モジュレーター



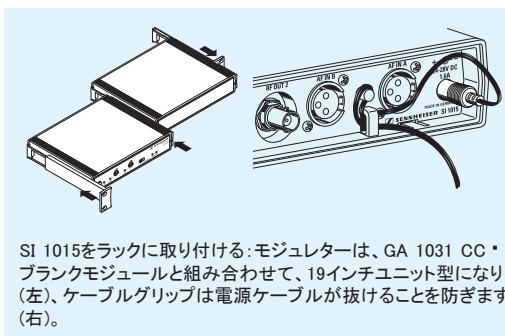
- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1 オン/オフスイッチ | 6 チャンネルAのレベル |
| 2 電源オンインジケータ | コントロール |
| 3 チャンネルAのピークLED | 7 チャンネルセクタ |
| 4 チャンネルAのレベル | スイッチ |
| コントロール | 8 IR モニタリング ダイオード |
| 5 チャンネルBのピークLED | |

SI 1015のフロントパネル

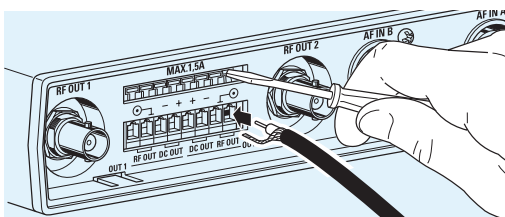


- | | |
|------------------|--------------------|
| 9 RF 出力 1 (BNC) | 15 オーディオ入力B(XLR-3) |
| 10 RF ターミナル 1 | ケーブルグリップ |
| 11 DC 出力 ターミナル 1 | 17 オーディオ入力A(XLR-3) |
| 12 DC 出力 ターミナル 2 | 18 DC 入力ソケット |
| 13 RF ターミナル 2 | (NT 1015用) |
| 14 RF 出力 2 (BNC) | |

SI 1015のリアパネル



SI 1015をラックに取り付ける: モジュレーターは、GA 1031 CC・ブランクモジュールと組み合わせて、19インチユニット型になり(左)、ケーブルグリップは電源ケーブルが抜けることを防ぎます(右)。



SI 1015のバリアストリップにラジエーターを接続する: 対応するターミナルをドライバーを使用して弛め、突起を押し下げます。

SI 1015ワイドバンドモジュレーターは、1チャンネル、2チャンネルそしてステレオ動作を切り替えることができます。信頼性の高いトランスミッションを保証する、キャリア周波数・2.3と2.8MHzを使います。GA 1031 CCブランクモジュールを使用すると、コンパクトなSI 1015は簡単に19インチラックにマウントすることができます。

モジュレーターのコントロールは、左図に表示しています: フロントパネルの一番左は、オン/オフスイッチで、その隣にあるLEDはDC電圧の供給を示します。チャンネルAとBのAFレベルは、コントロール4と6を使用して調節できます。

AFレベルは、ピークLEDがピークボリュームで時折点灯するように、調節します。チャンネルセクタースイッチ(7)で、モジュレーターはチャンネルAまたはBのモノ動作、2チャンネルデュアルモノ(A/B)そしてステレオ動作を切り替えることができます。ステレオ動作で、チャンネルのコントロールアンプは、連結されます。伝送されるIR信号は、モジュレーターでチェックされることができ、SI 1015の特徴として2つのモニタリングダイオード(8)があります。キャリア周波数2.3と2.8MHzで動作する受信機を使うことを忘れないでください。

モジュレーターの後ろパネルには、NT 1015メインユニットを経て電源に接続される、DC入力ソケットがあります(左図参照)。モジュレーターをラックマウンティングするとき、それがソケットからコネクタが抜け落ちないように使う、電源ケーブルグリップがあります。オーディオ信号は、2つの電子バランス型XLR-3入力ソケット(15と17、チャンネルBとAのため)から、モジュレーターに供給されます。入力ソケットは、ライン感度ですが、オプションでダイナミックと(12Vファンタム パワリングが可能な)コンデンサマイクロフンのために、マイクロフォン感度を付けることができます。RF信号は、2つのBNCソケット(9と14)を使用してSZI 1015、SZI 1029、SZI 1029-10またはSZI 1029-24ラジエーターに接続することができます。

代わりに、RF信号は、バリアストリップも利用できます: ターミナル10と13は、2つのBNCソケットと平行です。接続には、同軸ケーブルの外側を剥いて、そして、芯線のコンダクターの約1cm剥きだします。銅の編組線は、それからねじられて、アースターミナルのフレームに差込、芯線のコンダクターを隣のターミナルに挿入します(図参照)。RFチェーンの最後のラジエーターを接続するとき、50オームターミネーティングインピーダンスを使うのを忘れないでください。

モジュレーターのDC供給電圧は、ターミナル11と12からも供給できます。SI 1015は、このように2芯ケーブルによって、2台のSZI 1015ラジエーターまたは1台のSZI 1029-24ラジエーターに電源を供給することができます。また、直流用に、例えばCordialのCVS 50-275ケーブルのような、追加のコンダクターのある同軸ケーブルを使うこともできます。ゼネラル通商(株)は、この簡単なインストール方法に関するより多くの情報を供給します。

一般に、SI 1015モジュレーターは、SZI 1015ラジエーター、SZI 1029全種類とSZI 30ラジエーターを使うことができます。以前のSZI 20ラジエーターは、周波数2.3と2.8MHzで動作することができないので、接続して使うことができません。SZI 1219 AやSZI 1019 Aシリーズモデルのような他の古いラジエーターモデルもまた、適当ではありません。